

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2020年 夏号 Vol.93

愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 歯科診療について
- 2面 【連載】セラピストだより③ / 看護助手の仕事について
- 3面 地域クリニックとの連携の中で⑦
- 4面 患者さまだより⑦ / 訪問リハビリテーションだより

歯科診療について

診療部 北垣 次郎太

皆さんは歯磨きをして、虫歯や歯周病にならないように口のケアを行っていることと思います。では介護が必要な方の場合はどうでしょうか。多くの場合、手指の不自由で歯磨きが上手く出来ず、介護の方による口のケア（いわゆる口腔ケア）が必要となります。口腔ケアは介護の方による歯磨きで口腔衛生状態を回復させるのみならず、歯科医師・歯科衛生士・摂食嚥下障害看護認定看護師等の治療による口の機能を回復させます。これらすべてが連携して、誤嚥性肺炎などの全身疾患の予防や「食事・会話・笑顔」といったQOLの向上が獲得されます。

当院では歯科医師による歯科治療・歯科衛生士によるクリーニングを行っております。2階にある診療室へ

診療台での
治療



車椅子での
治療



はバリアフリーで、病棟から車椅子での移動が可能です。病棟看護師が送迎を行っているため、安心して受診していただくことができます。また診療台への移動が困難な方には、車椅子のままで治療が受けられるように、可動式のユニットを使用しています。病室から出られないような場合には、歯科医師と歯科衛生士が病室まで行き、口の中の状態を確認します。「歯科治療は恐いので検診だけ」という方には、歯科医師会が主催している無料の歯科検診を行っております。また、退院後も継続した歯科治療が必要と判断した場合は、かかりつけ歯科やお近くの歯科医への紹介も行っています。

歯科治療に対して不安を持たれている方に対して、少しでも安心して受診してもらえるように、入院された患者様とのコミュニケーションを大切にしています。





言語聴覚療法とは？

言語療法科 科長 西島 浩二

皆様、言語聴覚療法ってご存じですか？

理学療法・作業療法と比べると歴史が浅く、認知度は低いかもしれませんが、言語聴覚療法は「話す」「聞く」「食べる」など、人が生きていく上でとても重要なことに対して、治療・指導・助言などの支援を行っています。

当院では、主に脳卒中後の「言語障がい」「高次脳機能障がい」「摂食嚥下障がい」など、コミュニケーションや食べることに對しての言語聴覚療法を行っています。

コミュニケーションとは、人間の間で行われる知覚・感情・思考の伝達のことですが、お互いに心を通じ合わせることが大切です。「ことば」の言語聴覚療法が中心となりますが、それ以外にも個人個人に合わせて最適な伝達手段を検討し、支援しています。

また、口から食べるということは単に生きる上での栄養摂取のみでなく、日常の大きな楽しみでもあります。



より安全に楽しく食事ができるように、姿勢や食事形態、摂取方法などの評価・治療を行っています。

言語聴覚療法は生活を考える上でとても重要なリハビリテーション医療の一つです。我々スタッフはその点を理解した上で、一人一人の患者さまに真摯に向き合っています。

*看護助手の仕事について

看護部 福井 希代子

勤続20年！

ベテラン看護助手の
入江さん(6階病棟)に
インタビュー

みなさんは看護助手の仕事をご存じでしょうか。当院には、6つの病棟に分かれ45名の看護助手が勤務しています。看護助手は、看護業務を補助する役割があり、看護師の指示のもと、患者様の食事や入浴、着替え、トイレなど身の回りの介助を行います。他にも患者様の検査の送迎や診察で使用した機械類の片づけ、物品の補充や管理など、診療にかかわる周辺の業務なども行っています。特に当院の患者様は、リハビリを受けながら車いすの移動から歩行器歩行や杖歩行になるなど、回復に応じて介助方法が変化します。リハビリで訓練していることを入院生活の中で繰り返し行うことが大切なので、患者様のできることは行っていただき、介助しすぎないように注意しながら安全に行えるよう介助をします。

また、当院には6人のベトナムから来られた看護助手が働いています。4人は介護の技能実習生として、2人は介護の学校に通いながら非常勤として仕事をしています。介護の勉強も日本語の勉強もしながら、慣れない国の生活をし、仕事を続けることはとても大変だと思いますが、6人とも熱心に頑張っています。見かけられた方はぜひ声をかけてあげてください。

最後に、看護助手の仕事は患者様の生活を支えるやりがいのある仕事です。看護助手に興味をもたれている方は一緒に働いてみませんか。ぜひ看護部までご連絡下さい。

Q 看護助手として働く中でのやりがいは？

A. 患者様自身で出来ることが増えたり、病気でコミュニケーションが取りにくい患者様でも、関わらうちに思っておられることがわかるようになったら嬉しいです。笑顔で退院される時には、この仕事をやって良かったと感じます。

Q これまで働く中で嬉しかったことは？

A. たくさんありますね。患者様が、入院されたときには転倒される可能性が高い方だったのに、退院される時には歩いて帰られるのを見て、本当に嬉しくなります。他にも退院した後にお礼を言いに病院に立ち寄っていただいたりした時も嬉しいときですね。





岸本クリニック

脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、内科

〒567-0868 茨木市沢良宜西1丁目4-10

TEL.072-638-1100

*診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	●	○	●	●	○	●	○
17:00~19:30	●	●	●	●	●	○	

※火・金曜日の午前診は8:00~12:00

※土曜日の午後診は14:00~18:00

※日曜・祝日は9:00~15:00

*アクセス 阪急南茨木駅より徒歩約3分

- ・駐車場ありく루미エル第2駐車場> 2.7.8.10.11.12.31.37.38.40.43
- ・送迎車あり 詳しくは受付でご確認ください



岸本クリニック 院長 岸本康朗先生にクリニックをご紹介します。

大阪大学を51年度に卒業し、大学病院、国立循環器病センター、大阪警察病院研修の後、30年前に南茨木に開業いたしました。生理機能検査に強いレントゲン技師、検査技師さん達とMRI、CT、超音波検査、脳波検査を使用して循環器疾患の診断治療の体制ができあがりました。時代の流れとともに10年前より理学療法士、言語聴覚士、作業療法士の仲間とともに脳梗塞後遺症、神経疾患に対応できるデイケア、運動器リハビリを開始し、隣接の訪問看護ステーションとともに在宅治療を開始致しました。最近2年間は体力維持がテーマになりました。3人の管理栄養士とともに筋肉、骨格の維持向上と肥満予防に力を入れています。

私個人も体力は右肩下がりで、プレフレイルを回避すべく、ロードランニング、山登りで大阪の都会と山並みを目と体で味わっています。可能なら70代でハーフマラソンに本格参加して70代の入賞ができればなあと夢見ています。(なお60代でフルマラソンは中止致します。)でも体力維持は非常に難しいものです。

色々なことで高槻病院、愛仁会リハビリテーション病院にはお世話になっています。今後ともよろしく願い申し上げます。



岸本康朗院長 ▶

INTERVIEW

インタビュー

地域医療部 渡部 有加

K様は今年の1月中旬に脊椎の手術で急性期病院へ入院され、3月中旬にリハビリ目的に当院へ転院してられました。懸命にリハビリに取り組み、在宅サービスを調整しご本人・ご家族様の希望であったご自宅へ5月末に退院されました。



ご自宅へ退院後は毎朝のヘルパー、週3回のデイサービスを利用され、現在は奥様・ご長女様の援助も受けながら生活されておられます。デイサービスのない日はご長女様と近隣のめだかの池がある家まで散歩に行かれるなど、活動的な生活が送れるよう工夫されていました。あまり多くを語られることはありませんでしたが、ご自宅での生活を伺うと「やっぱりいいね。」と返答されたときの笑顔がとても印象的でした。

ご長女様は「入院生活を通じて生活習慣が身についた。」と話して下さいました。特に着替えに関しては、「時間をかけてでも自分でできるようになり、非常に助かりまし

た。」とおっしゃられ、入院生活での習慣が継続されていることも伺いすることが出来ました。

訪問終盤にはご長女様と買い物に行く予定をされておられたため、いそいそと準備を始められました。入院中より生き活きとされている様子を拝見することができました。

K様、奥様、ご長女様、お忙しい中訪問の時間をいただきありがとうございました。



訪問リハビリテーションだより



退院後に病院からセラピストがご自宅へお伺いする訪問リハビリを利用されて、社会活動にも参加できるようになりました。男性Mさんをご紹介します。

Mさんは脊柱管狭窄症の術後、当院でリハビリテーションに取り組み、ご自宅へ退院されましたが、若干膝折れによる転倒の危険性があったため、訪問リハビリを開始させて頂くことになりました。

訪問リハビリでは、1人で行うには転倒の危険が伴う屋内外での歩行練習や、自宅で行える自主練習の提供などを行いました。Mさんはリハビリ以外にも積極的に運動に取り組まれ、3ヶ月後には目標とされていた、自宅前の神社や公民館まで杖で歩けるようになりました。訪問リハビリを卒業されました。そして、卒業1ヶ月後に生活状況を伺いに再度訪問したところ、自宅周辺は杖なしで移動できるようになっておられました。また登下校の学生見守りボランティアにも参加されるなど、社会活

退院後の安全な日常生活の獲得と社会活動の参加に向けて



愛仁会リハビリテーション病院
在宅支援科(訪問リハビリテーション) 中尾 香澄

動にも参加されていらっしゃるようです。

このように訪問リハビリでは、実生活場面での動作練習や運動機会・自主練習の提供などで、安全な日常生活の獲得や社会活動への参加に向けて支援させていただきます。

【Mさんのコメント】
訪問リハビリで運動の様子を見守って指導してもらえて、不安なく取り組むことができました。目標をもって取り組み安全に過ごせるようになったので、リハビリを続けて良かったです。